

流山市市民参加推進委員会の評価シート

| | |
|--------------|-----------------|
| 対象事業名 | 流山市第3次男女共同参画プラン |
| 担当課 | 企画政策課 |

① 市民参加の方法の選択について

事業内容からすると、審議会で有識者の意見を聞くことが重要と思われるため、審議会での意見聴取は妥当であったと考える。パブリックコメントも審議会の開催期間中に募集期間がかさなっているため、マトリックスな形で市民の意見を取り入れることができてよかった。

＜各委員からの意見＞

- ・ 現行プランの検証及び次期プランの課題や方向性等々専門的な見識が必要として審議会の選択は適切、妥当と評価するが、テーマの奥行きからすると更に踏み込んで、民間企業のノウハウ活用を意図した政策提案的な意見交換会も試みてはどうか。
- ・ この基本計画は、男女共同参画社会の実現に必要な事業を包括的に掲げる理念をまとめるという側面があり、この分野については、広く一般市民が誰でも意見が言えるというものでもないと感じた。そのため、この計画のもと、行政各部署が事業を展開するという側面があるので、審議会とパブリックコメントという二つの手法で仕方がないのではと考える。
- ・ 男女共同参画を考慮することが重要である場面を考えれば、審議会とは別に、パブリックコメントのみの実施で良かったのかに疑問が残る。むしろ、職場や学校(PTAを含む)、地域、民生委員、家庭裁判所、警察等多方面からの意見聴取やアンケートによるヒヤリングなどを追加で試みてはどうか。

② 市民参加の方法のスケジュールの妥当性について

現行プランの検証及び第3次プランの課題や方向性等々専門的な討議が必要と判断し審議会を7回開催し、更に並行してパブリックコメントで市民の意見を求めるなどスケジュールは適切であり妥当と評価する。

審議会の開催日数も多く、十分に審議できたと推察する。また、パブリックコメントに関しても、1か月をみれば十分であり妥当だったと考える。

＜各委員からの意見＞

- ・ HP、Twitter、広報紙と幅広く告知し周知を図ったことは評価するが、市民が発言しやすい実施時期、期間を考慮し実施されたい。
- ・ 今回のパブリックコメントに対する回答数の少なさを考えれば、1回の実施ではなく2、3か月の間隔で2回程度実施しても良かったのではないかと考える。方法としてもアンケートやヒヤリング方式でアプローチすることも必要ではと考える。

③ 事業の内容や市民参加の仕組みに対する市民等への情報提供について

審議会開催の2ヶ月前にHPに、更に7回にわたり広報紙に審議会の開催情報を掲載するなど、市民に向けた情報提供は十分行っている。

審議会の公募委員に関しても、一時保育があること(子育て中でも参加できること)をアピールしていた。また、Twitterなどを利用し、パブリックコメントに関しても周知しようとする努力が見受けられた。

＜各委員からの意見＞

- ・ 女性職員の意見を男女共同参画プランに反映させるために、女性職員に対するアンケートを実施し、その結果を市民に広く公表することも、大きな目玉で市民参加の方法ではないだろうか。
- ・ すべての市民が暮らしやすい街づくりのためには、「男女共同参画社会の実現」は欠かせない視点である。普段は忙しくて市政に関わりをもたないが、職場で、地域で、ほんの身の回りで問題意識を持ったり、もしくはいろいろな実践をしている市民がいて、有効な意見を持っていたりする分野ではないかと思う。より一層市民参加の仕組みづくりに工夫が必要だが、現状はそのような意見の吸い上げが出来るか不明である。
- ・ パブリックコメントについて周知してもらうためTwitterを使ったのなら、事業の取り組みや情報提供なども随時Twitterで呟いて欲しい。

④ 改善点について

＜各委員からの意見＞

- ・ パブリックコメントが14件というのは、少ないように思えるが、工夫次第では増やせるのではないかと。
- ・ 男女共同参画ということ自体の特性から、パブリックコメントの募集期間の最中に、男女共同参画事業に関して積極的な市民団体へのアピール、Twitterへの発信数の増加もあってよかったのではないかと。
- ・ 次期基本プランの策定の時には、審議会の中に特別プロジェクトチームを編成する等、学識経験者や一般公募市民のほか、実際の男女共同参画の業務を実施している最先端の現場の声も取り入れてはどうか。
- ・ 本件のような事業内容の周知方法として、HP、広報紙で発信するだけでなく、その事業が必要な現場レベルでの周知活動が必要であり、その際の手法としても、説明会、アンケート、意見交換会などを行うなどの工夫が必要ではないかと。
- ・ 父母会やPTAと連携してアンケートを継続的に行うことで、子育て世代への浸透を図りながら、意識向上の度合いを数値的に測定していかれるようなシステムづくりの検討してはどうか。

⑤ 当該事業の評価について

| | | | |
|---|---|---|---|
| A | B | C | D |
|---|---|---|---|